



# 女性と文学

—中国が愛を知ってから—

会場：立命館大学衣笠キャンパス平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム

5/25  
(金)

16:30~18:00

少女中国 —中国少女のビルドゥングスロマン

講師：濱田 麻矢(神戸大学人文学研究科准教授)

6/8  
(金)

17:00~18:30

〈新女性〉と「書くこと」

講師：阿部 沙織(立命館大学外国語嘱託講師)

6/14  
(木)

16:30~18:30

林徽因とその文学：“アマチュア”であることと実践的であること

講師：李 憲瑜(首都師範大学文学学院副教授)

6/15  
(金)

16:30~18:30

丁玲：革命とフェミニズムの共生を確立した文学者

講師：賀 桂梅(北京大学中文系教授)

各回定員 75 名

参加費無料 (事前申込制)



中国にLOVEがやってきた——

20世紀、長い王朝時代が終わったあの頃、結婚も自分では決められない時代、突然もたらされた「愛」に人々はとまどい、喜び、怒り、そして悩んだ…。「愛」を知った現代中国において「女性であること」と真摯に向き合った女性作家たち。彼女たちの作品や人生を日中気鋭の研究者が縦横に語ります。あたりまえと思っていたあなたの「愛」が、きっともついとおしくなるかもしれません。

## 1 5月25日 | 金 少女中国 —中国少女のビルドアップスロマン

日本語

本報告は、20世紀の中国語圏で書かれた小説を「少女叙事」というキーワードを使って読み解くものである。

現代中国は「新青年」の時代であったが、この青年とは、つまりは男性のことであった。「新女性」は果たして、青年の良き伴侶になる以上のことを求められていたのだろうか。今回は、より強く正しい社会を作ろうと奮闘する若き国家＝「少年中国」に対して、彼らによって見出され、ある時は欲望され、またある時には嫌悪される少女たちのバーチャル空間として「少女中国」を想定する。少年たちが瑞々しい知性と行動力で国家建設を期待されていたのに対し、少女たちはある時には良妻賢母として少年たちに尽くすことを求められ、またある時は少年たちと同じく政治信念のために献身することを期待されていた。このダブルスタンダードは、近代に輸入された「自由恋愛」に由来するものだと思われる。



濱田 麻矢

HAMADA Maya

神戸大学  
人文学研究科  
准教授

京都大学大学院文学  
研究科博士課程中退。  
京都大学人文科学研  
究所助手、神戸大学  
文学部講師を経て現  
職。

## 2 6月8日 | 金 〈新女性〉と「書くこと」

日本語

中国においても、女性の地位向上は近代化の命題のひとつでした。20世紀初頭、新式教育を受けた〈新女性〉の中から、自己実現や女性の解放を目指し「書くこと」を選ぶ作家たちが現れます。本講座では、京都にもゆかりのある1900年生まれの女性作家、凌叔華の作品を中心に上げ、新式女子教育を受けた「新しい女性」が「書くこと」を通してどのように婚姻、家庭といった個人の生活や新旧の過渡期にある社会、戦争と向き合ったのかをたどります。

凌叔華是北京、神戸、京都、武漢、楽山、ロンドン、シンガポールと政情不安や戦火のためその生涯で各地を流転しました。作家として中国を書くことは「人類への貢献」につながると考えていた彼女は、後年にはヴァージニア・ウルフに励まされ自伝を書き上げます。このように一貫して女性として書くことを追求した凌叔華の作品を今に生きる私たちはどのように読むことができるのでしょうか。



阿部 沙織

ABE Saori

立命館大学  
外国語嘱託講師

お茶の水女子大学博  
士後期課程単位取得  
退学。

## 3 6月14日 | 木 林徽因とその文学：“アマチュア”であることと実践的であること

中国語・逐次通訳

林徽因は、1930年代の中国文壇において頗る有名な存在であり、“京派”の中核メンバーであった。とはいえ、林徽因が特別であったのは、彼女の専攻は建築と舞台美術であり、のちの肩書きも中国营造学社（中国の建築研究機構）の建築学者であった点にある。彼女はこのように“アマチュア”の作家であったからこそ、独自の文学的視点と態度を持ちえたといえる。一方で、林徽因は文芸の活動家としても、編集や評論、表彰、サロン開催、舞台美術のデザインなど、常に“実践的”な形で文学の世界に参入していた。そしてこのような文芸の実践的活動はまた彼女の文学作品と相まって相乗効果を生み出していた。

今回私たちは“アマチュア”であることと実践的であることという視点から掘り下げ、更に深いところから林徽因の文学の世界をみてみよう。



李 憲瑜

LI Xian Yu

首都師範大学  
文學院副教授

北京大学中文系博士  
課程修了。専門分野  
は中国現代文学。

## 4 6月15日 | 金 丁玲：革命とフェミニズムの共生を確立した文学者

中国語・逐次通訳

丁玲は、20世紀の中国において最も女性の権利を意識した文学者であると同時に、時代の最先端に立つ革命家でもあった。彼女は中国の革命とフェミニズムの実践を融合させ共存共栄させるという新たな文学形態を確立した。本講演では、五四運動から抗日戦争、新中国の建国と“新時期”までの各時期における丁玲の社会的身分、女性の権利への意識および文学作品の変容を簡単に紹介し、とりわけ、1942年に発表された雑文『“三八節”有感（国際女性デーに寄せて）』を軸に、丁玲のフェミニズムに対する考え、またそれが20世紀の中国に与えた影響を解説する。



賀 桂梅

HE Gui Mei

北京大学  
中文系教授

北京大学中文系博士  
課程修了。主な研究  
分野は20世紀の中国  
文学史、思想史、女  
性文学史研究など。

### お申込方法

当学院HP内「文化イベント講座受講申込フォーム」または、右のQRコード先からお申込ください。



### お問合せ先

立命館孔子学院事務局（国際平和ミュージアム2階）  
〒603-8577京都市北区等持院北町56-1立命館大学アカデミア立命21  
TEL：075-465-8426 FAX：075-465-8429  
E-MAIL：koza@st.ritsumeiji.ac.jp HP：http://www.ritsumeiji.ac.jp/confucius